

〔三宅島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

三宅島におけるハスオビエダシヤクの密度推移

伊藤 綾・西村修一\*<sup>1</sup>・秋山 清・宇津木栄司\*<sup>2</sup>・三宅支庁産業課・三宅村産業振興課  
(島しょセ三宅) \*<sup>1</sup>現中央普セ・\*<sup>2</sup>現南多摩普セ

---

【要 約】2007～2010年に、ハスオビエダシヤク成虫・幼虫密度を調査した。本種の成虫・幼虫密度は2007年をピークに年々減少し、2010年の発生はみられない。

---

【目 的】

三宅島では2005～2006年にハスオビエダシヤクが大発生し、ツバキやアシタバ、野菜類に大きな被害を与えた。三宅事業所・三宅支庁が三宅村役場と協力して本種の密度調査を行い、発生消長を明らかにすることで、薬剤防除要否と防除時期の決定の資料とする。

【方 法】

1. 成虫密度調査(2007～2010年)：3月末～5月末にかけて、島内の坪田・阿古・神着地区(図1)にライトトラップ(石崎電機製作所製, MC-8200)を各1台設置し、誘殺された成虫を週1回計数した。
2. 幼虫密度調査(2007～2009年)：5月上旬に、島内5地区31ヵ所(図1)において時間単位採集法(3～5名1組で、1人が3分間に接触した幼虫数を計測)にて実施した。

【成果の概要】

1. 成虫密度：誘殺のピークは4月下旬から5月上旬に認められ、坪田地区が最も多かった。いずれの地区も2007年が最も多く、2008年以降はそれぞれ前年の半数以下と大幅に減少し低く推移した。神着地区では2009年以降誘殺が無く、2010年は全地区で成虫の誘殺は皆無であった(図2)。
2. 幼虫密度：坪田地区が最も多く、2007年は最大63頭/人/分となったが、2008年以降は年々減少し、2009年の発生は坪田地区のみとなった(図3)。神着地区の幼虫密度はいずれの年も低かった(図2)。
3. 幼虫密度と成虫誘殺数は正の関係が認められ(図4)、成虫誘殺数が多い年は幼虫数も多い傾向がみられた。
4. 各年の成虫誘殺数と幼虫密度調査の結果を確認後、村役場が中心となり道路沿いのツバキを中心にBT剤の散布を実施した(表1)。前年に被害が多発した場所を中心に散布を行った。2010年は成虫の誘殺がいずれの地区でも無かったため散布を行わなかったが、島内で本種による被害は発生しなかった。
5. まとめ：2007～2010年にかけて、ハスオビエダシヤク成虫・幼虫密度を調査した結果、本種の成虫・幼虫密度は2007年をピークに年々減少し、2010年の発生はみられない。

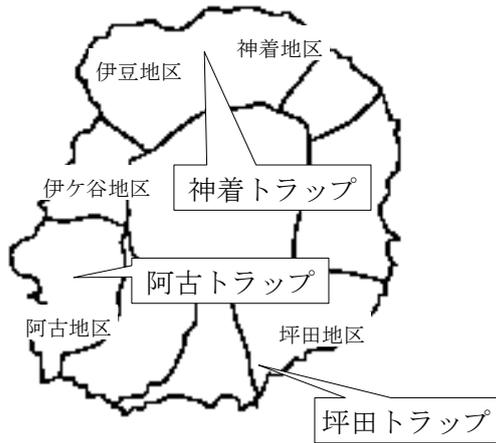


図1 島内の調査地点

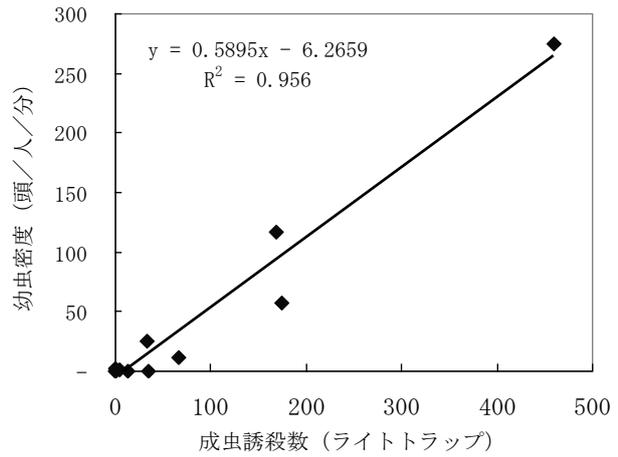


図4 幼虫密度と成虫誘殺数の関係

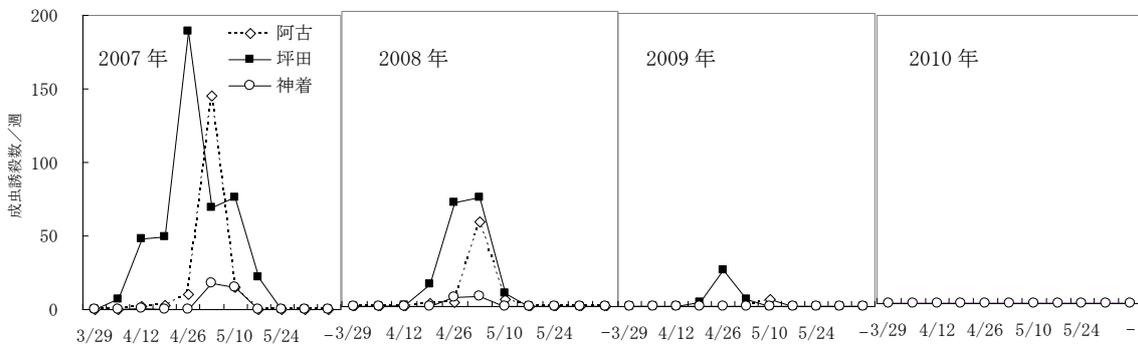


図2 ハスオビエダシヤク成虫の週あたり誘殺数 (ライトトラップ, 2007~2010年)

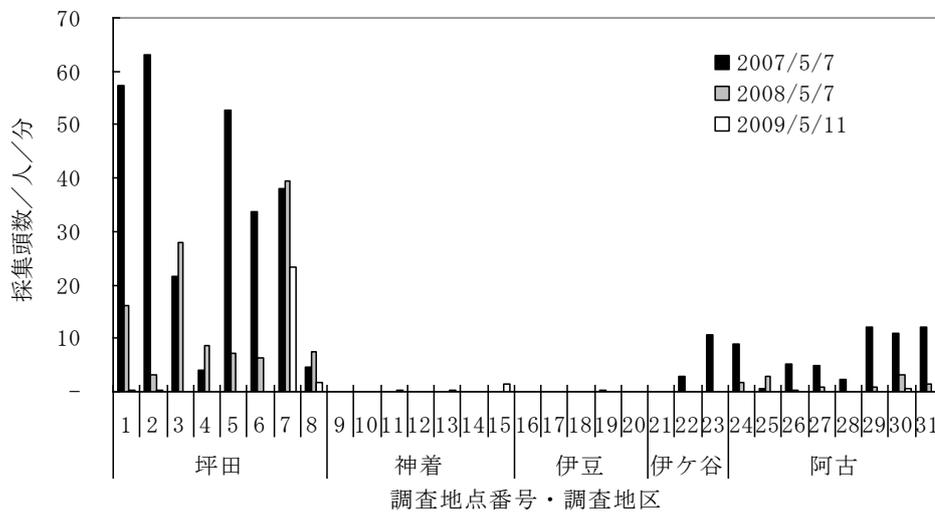


図3 ハスオビエダシヤク幼虫の密度推移 (2007~2009年)

表1 島内で実施した薬剤防除

年	面積 (ha)	防除薬剤	希釈倍数	散布時期	散布地区	散布場所
2007	25	ダイポール水和剤	500	5月中旬~6月中旬	島内全地区	都道・村道・林道・農道
2008	50	ダイポール水和剤	500	5月中旬~6月中旬	島内全地区	都道・村道・林道・農道
2009	3.8	トアローCT水和剤	1000	5月中旬	坪田	都道・村道
2010	-	-	-	-	-	-